

【草花の部屋】

ハス (ハス科ハス属 *Nelumbo nucifera*)

和名：ハス(蓮)

別名：ハチス、スイフヨウ(水芙蓉)、フゴセン(不語仙)、イケミグサ(池見草)、
ミズノハナ(水の花)、レンゲ(蓮華)

英名：Lotus

ヤマモガシ目 多年性水生植物

原産地：インド

花言葉：清らかな心、神聖

花色：白、桃、黄



← 写真-1 ハス

撮影日：2021年7月10日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



↑ 写真-2 ハスの花卉、雄蕊、花床

撮影日：2021年7月10日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 ハスの花

撮影日：2021年7月10日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-4、5 ハスの花

撮影日：2017年7月17日

撮影場所：東大寺本坊庭園(奈良市)にて

撮影者：M さん



世界に自生するハス属の植物は二種のみで、桃色の花を咲かせるヌシフェラ種 (*Nelumbo nucifera*)、黄色の花を咲かせるルテア種(キバナハス：*N. lutea*)があり、両種の交雑により、多くの園芸品種が誕生しているそうです。家庭で育てやすいサイズの小型の「チャワンバス」という種類もあります。

日当たりがよい場所を好むので、朝から夕方まで直射日光が当たる場所に植えると良いそうです。池など広い場所で咲くイメージがありますが、大きなかめや樽でも栽培することができます。しかし、年1回植え替えないと、花が咲きにくくなります。レンコン(蓮根)の部分は乾かすと腐りやすくなるので、掘り取ったレンコンをすぐに植えつけない場合は、水中に沈めて保存しておくが良いそうです。

日本には非常に古い時代に中国から渡来し、各地の水田や池、沼などで広く栽培されています。

地中の地下茎から茎を伸ばし水面に葉を出す水生植物で、地下茎はレンコン(蓮根)として食用にされますが、主に食用にされる系統と、花を楽しむ系統があり、花を楽しむ系統の地下茎は、あまり太らず食用には向かないそうです。

水底の土中を地下茎が節をつくりながら伸び、節ごとに葉芽と花芽がつきます。

葉は楕円形～円形の単葉で、全縁、葉の縁はやや波打ちます。撥水性があって水玉ができます(ロータス効果)。

春に出る葉は水面に浮く浮葉で、夏に出る葉は水上に突出する長い葉柄を持った葉。秋にやや小さい止め葉を出し、この葉が出ると土中の地下茎が肥大し始めます。

ハスの花期は7～8月で、花は葉柄より長く伸びた花茎の先に一つ咲きます。花の中心には特徴的な花托があり、花托の周囲には多数の倒卵形の花弁があります。花床は上面が平らな蜂の巣状で、多数の穴が開き、その穴の中に雌蕊があり種子ができます。花は午前中に開き、午後には閉じてしまいます

<ちょっと一言>

*奈良県葛城市の當麻寺には中将姫がハスの繊維を使って一夜で織り上げたと言われる當麻曼荼羅があります。茎の表皮を細かく裂いて作る糸を「茄絲(かし)」、茎の内部から引き出した繊維で作る糸を「藕絲(ぐうし)」と呼び、どちらも布が織れるそうです。が、40 kgの蓮の茎から僅か2gしか取れないそうです。

*スイレンとハスの見分け方

葉；

- ・両種とも葉は円形。スイレンには切り込みが入り、ハスには入りません。
- ・スイレンは、水面に葉が展開し、ハスは水面上に出ます。
- ・スイレンの葉には撥水性が無く、光沢がありますがハスには撥水性があり、光沢は有りません。

花；

- ・スイレンの温帯種は水面に咲き、熱帯種は水面から突き出て咲きます。花が終わると水中に沈み、果托はできません。
- ・ハスは水面から高く出て咲きます。花が終わると花卉が散り、果托ができます。

根；

- ・スイレンの温帯種はワサビ型の塊根で。熱帯種は球根形の塊根です。
- ・ハスは地下茎が肥大して蓮根になります。

*スイレン (スイレン科スイレン属 *Nymphaea*)

和名：スイレン(睡蓮) **別名**： **英名**：Water lily

スイレン目 水生多年草